はくぶつかんネット

第71号
令和３年７月～10月
発行：宜野湾市立博物館

慰霊の日写真パネル展
「沖縄戦の中の宜野湾」

ご報告
ご来館ありがとうございました

今年も残すところ２ヶ月となりましたが、未だコロナウイルス感染の終息が見えない状況が続いております。これまで感染予防対策による施設の長期休館やイベントの中止、規模縮小などによって、皆さまの学びの機会も大幅に減少してしまっているのではないでしょうか。

宜野湾市立博物館でも、企画展の期間短縮や市民講座の延期、夏休みこども博物館教室の中止などを余儀なくされました。そのような中、慰霊の日写真パネル展「沖縄戦の中の宜野湾」も当初の６月16日（水）から７月11日（日）までの会期予定を変更し、７月12日（月）から７月25日（日）までの開催期間（10日間）で終了させていただきました。

本パネル展は、戦争の記憶を次世代へ継承することを目的に、毎年慰霊の日の時期に合わせて開催しています。今年は、戦後、1955（昭和30）年の伊佐浜の土地闘争を含めて、戦前はのどかな農村であり中頭地域の中心でもあった宜野湾が、地上戦や米軍占領を経て基地の町へと変わっていく様子を、写真パネルを中心に住民の証言や映像資料など250点を用いて紹介しました。開催期間中は市内外から231名のご来場があり、アンケートでは、戦争の悲惨さや住民たちの苦労、戦後の新規土地強制接収の事実などを知ることができた等、数多くの感想をいただきました。

令和３年度 東京オリンピック開催記念企画展

すごいゾ！ 熱いゾ！！

宜野湾スポーツありんくりん

延期・再延期を乗り越え、なんとか開催できた企画展は、好評の中、無事終了しました♪

実はこの企画展、本来ならば“東京 2020 オリンピックやパラリンピック”の感動と、興奮の余韻に浸りながら見学していただけるぐらいの期間を設けて開催する予定をしていたのですが、「緊急事態宣言」によって当館も休館となり、開催日を何度か延長していたのですが、待てど暮らせど宣言の解除の声が聞けず、首を長くして待っていたらいつの間にやらオリンピックが閉会し、次にパラリンピックが閉会し…「このままだと、去年と一緒かなぁ…」と肩を落としていたところ、10 月１日（金）から 10 月 17 日（日）までの 15 日間ではありましたが、なんとか開催することができました。こんな時期ではありましたが、341 名の方に観覧していただきました。見学していただいた方からは、「スポーツは人を元気にする」・「地域の昔の企画展が大好きでしたが、今日のスポーツのような、あるテーマにとっかした企画展もおもしろいですね。」という声があり、概ね好評のうちに終了しました。今回の企画展開催にあたり、快くご協力いただいた皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。ほんとうにありがとうございました。

たくさんの方のご来場、ありがとうございました

察度生誕 700 年記念パネル展「琉球王国繁栄への道のり」開催中！

皆さまは、察度（さっと）という人物をご存知でしょうか？察度（1321～1395）は、謝名村（じゃなむら）（現在の宜野湾市真志喜）にある湧き水、森の川で生まれた天女の子として伝えられています。その後、中山王になった察度は、1372 年に中国（明）と初めて公式な交易を行います。明との交易により、他の国と交易を行う権利を得た琉球国は、アジア初の中継貿易国として大きく発展を遂げます。2021（令和３）年は、そんな彼の生誕 700 年という記念の年にあたります。

当館では、察度の生誕 700 年を記念したパネル展「琉球王国繁栄への道のり」を、緊急事態宣言解除後の 10 月１日（金）から当館１階ロビーで開催しております。パネル展では、察度にまつわる「羽衣伝説」や、中国・琉球の歴史書などから分かる察度の人物像や功績、現在も残る察度に関係する文化財を紹介します。

また、察度について広い世代に知っていただく機会として、本パネル展を小中学生向けにわかりやすく作り直した移動パネル展を、令和３年 10 月～令和４年３月の期間に市内小中学校で、順次開催しております。

展示をご見学してくださいました皆さま、ご来館いただきありがとうございました。このパネル展は、12 月５日（日）まで開催を予定しておりますので、さらに多くの皆様のご来館をお待ちしております。

パネル展の様子（博物館ロビー）

パネル展の様子（中学校）

ウソ？ホント？察度にまつわるあれこれ

①察度の屋敷には、黄金が転がっており、黄金を使って、日本の商人と鉄を交換した！？
（本人は奥さんに言われるまで、ただの石ころだと思っていたようです）
②天女にまつわる「羽衣伝説」は、沖縄県内各地に存在している！？
③察度は、沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』の中で「謝名思い（じゃなもい）」として歌われていた！？
④首里城は、察度が建てた！？
⑤大謝名小学校周辺は、察度が生きていた当時、海だった！？

パネル展の中では、これらに関連した内容を記しています。
是非、パネルなどを見ながら、ウソなのか、本当のことなのかを考えながら、みてください！

イメージキャラクター
さっとくん

市史だより がちまやぁ Gači-majaa

◆ ぎのわんに小学校が１校だけ？

現在の宜野湾市内には、市立９私立１、あわせて 10 校の小学校があります。しかし、初めて小学校ができた明治時代には、たった１校しかない時代がありました。今回は、そのころの小学校を紹介します。

①中頭小学校

沖縄県の近代学校教育は、1880（明治 13）年に始まります。宜野湾間切にできた最初の学校は中頭小学校で、1881（明治 14）年のことです。校舎や運動場の設備はなく、普天間の神宮寺の建物を借りて授業をしました。

浦添と宜野湾を除く中頭の各間切から 2～3 名ずつ選抜された 21 名の生徒たちが、ここで学びました。浦添と宜野湾は、すでに師範学校へ進学した者がいたので、生徒は募集しなかったということです。生徒には、教科書や石盤（せきばん）、算盤（そろばん）などが無料で貸し出されました。

普天間山神宮寺（中頭小学校）
中頭地方の人びとに、近代の「小学校」を宣伝するための、モデル校としての役割もありました。

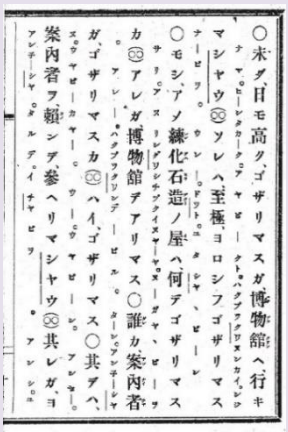
② 言葉が通じない…

中頭小学校での授業が始まりました。先生は、たった一人で、佐賀県からきた野村成泰（なりやす）先生と、沖縄の生徒の間で、会話が通じないという問題が起きました。生徒は、先生の言ったことが理解できません。さらに年長の生徒は覚えるのが遅く、授業がはかどりません。

この原因は、そもそも会話ができないことだとして、沖縄県学務課が作成した『沖縄対話』という教科書を取り寄せ、その内容が暗唱できるようになるまで、特訓させました。授業の時間外にも、練習をさせたところ、だんだん結果が出て、先生と生徒の間での会話が、通じるようになったそうです。

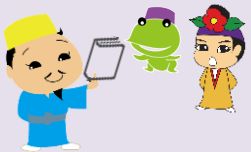
③『沖縄対話』とは？

1880（明治 13）年に沖縄県学務課が編さんしました。沖縄で日本語を教えるための最初の教科書です。会話伝習所（のちに師範学校）や小学校で使われました。



『沖縄対話』（部分）
国立国会図書館所蔵

〈例〉



【日本語】未ダ、日モ高ク、ゴザリマスガ、
博物館ヘ、行キマシヤウ。
【琉球語】ナマ、ヒーンタカーク、アヤビークト、
ハクブツクヮヌンカイ、ンジナービラ。

《コラム　琉球王国時代の教育》

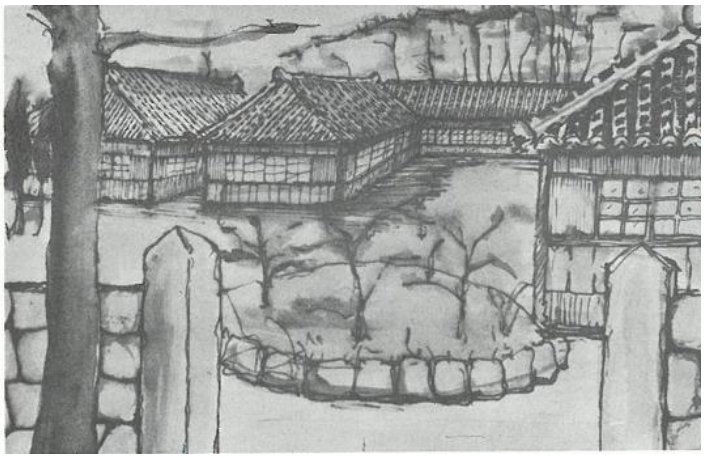
首里と那覇以外の地域には、筆算稽古所（ひっさんけいこしょ）という学校がありました。「筆」（読み書き）、「算」（ソロバン）を教えていました。

ちなみに「筆」は、まず「ひらがな」を教えたようです。次に漢字だけの本を素読（そどく）します。素読とは、書かれた内容や意味を教える前に、声に出して読むことです。その後、必要に応じて先生から意味の解説がありました。

◆ぎのわんの小学校　～宜野湾小学校～

◆近代学校教育の始まり◆

1882（明治 15）年に中頭小学校が廃校になり、同年、宜野湾小学校が設立します。場所は宜野湾馬場の東で、現在その場所は普天間飛行場の中にあります。学校の門の前はちょうど宜野湾街道になっていて、反対側に宜野湾馬場があり、そこが運動場がわりになっていたそうです。



戦前の宜野湾小学校
『創立百周年　記念誌　宜野湾市立宜野湾小学校』（1983年）より

宜野湾小学校の向かいには、宜野湾村役場や郵便局、市場もあったんだ。村の中心にあったんだよ。

◆就学勧誘（しゅうがくかんゆう）◆

当初の教育は新旧思想の過渡期で、教員が他府県人であるとか、日本教育に対する不平、生活問題などで就学勧誘に難渋（なんじゅう）しました。褒章（ほうしょう）で奨励（しょうれい）したり、就学拒否に対して罰則を設けたりして勧誘にあたったそうです。

当時の親や子どもたちは、どんな事情や不安を抱えていたのかしら？

学校に行かせたら兵隊に取られたりしないかな…

勉強するより家のことを手伝ってほしい…

下の兄弟の子守があるから…

農作業の手伝いがあるから…

他にも理由はありそうだ

出席奨励のため、欠席したら一銭ずつ罰金を課して厳しくしていた先生もいたよ。

みんな学校に来たがらないので、よく出席した生徒には、月５銭ずつ奨学金を出していたらしい。

明治、大正から昭和の頃まで続いたと思いますが、出席勝負というのがありました。学級対抗、部落対抗で競争しました。出席等位によって旗の色が違っていました。

◆女子教育の不振◆

沖縄は旧藩（きゅうはん）時代から、貴・士族の間でも女子に学問をさせる習慣がありませんでした。そのため、明治の近代教育が始まっても女子教育が遅れました。当時は、女子は子守や家事に専念するものと考えられていました。たとえ尋常小学校に入学しても１、２年で退き、高等小学校へ進む者はいませんでした。初めて中頭高等小学校に女生徒が入学するのは1898（明治31）年になります。

《コラム　宜野湾小学校の校旗を紹介するよ♪》

原案　伊礼門　洋輝（昭和55年度卒業）

- 左右に広がる翼は、未来に翔く子どもたちと学校の飛躍的発展を象徴する。
- 中の桜は、花のように美しく、明るく、情操豊かに育つ子どもたちを願い、また美しい環境で学ぶことを誇りとする。
- 金色の「宜小」の文字は、左右対称で、安定を意味し世紀に光り輝く学校を象徴する。

宜野湾小学校『世紀をこえて　創立120周年記念誌』（2001年）より

第29回ぎのわんの文化財図画作品

審査委員会と受賞作品紹介

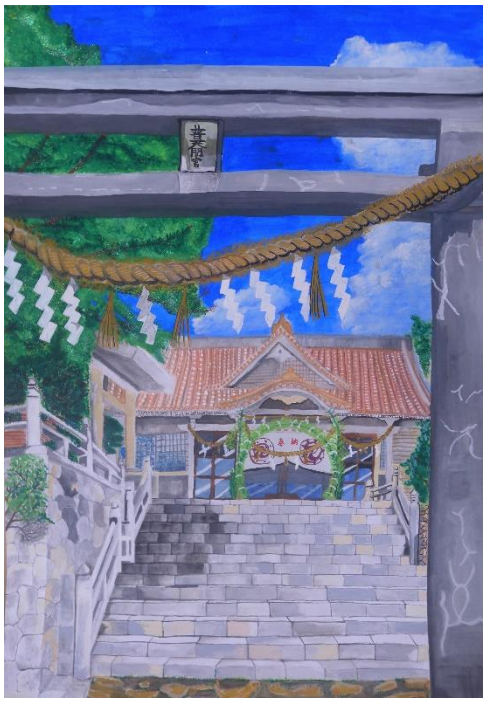
市内の小学校３年生から中学校３年生までを対象に、市の文化財に関心を持ってもらうことを目的として、毎年「ぎのわんの文化財図画作品展」を開催しています。昨年はコロナ感染拡大防止のため同作品展を中止、今年も昨年と同様にコロナ禍の夏休みでしたが、小学校93点、中学校84点、合計177点とコロナ以前の前回（2019年）180点とほぼ同数の出品がありました。9月13日（月）には各小中学校の先生方ご協力のもと、作品審査会をおこない、小学校中学年（3・4年生）の部、小学校高学年（5・6年生）の部、中学年の部からそれぞれ教育長賞、金・銀・銅賞を決定しました。審査会の様子とそこで選出された受賞作品の一部をご紹介します。

審査会の様子：小学生の部

審査会の様子：中学生の部

教育長賞作品

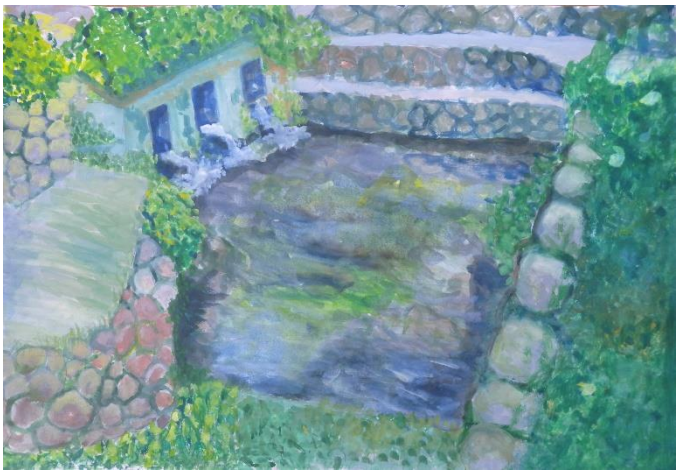
中学校の部　１名



「癒しのパワースポット普天満宮」
仲地　輝　（普天間中学校　3年）

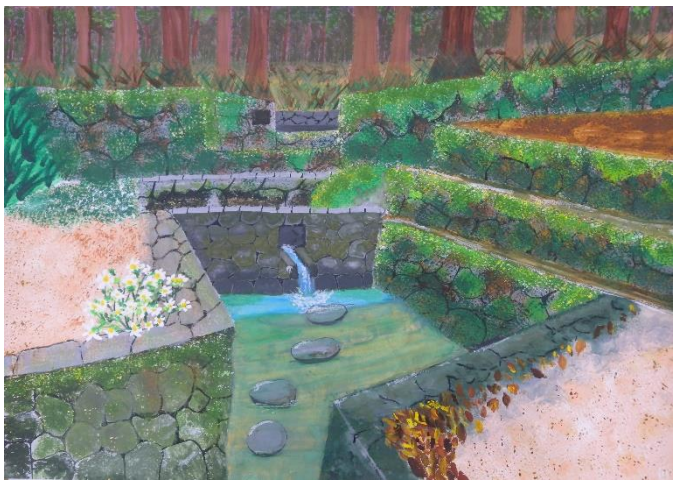
小学校　中学年の部　１名

受賞おめでとう！



「犬謝名メーヌカー」
長堂　凜寿（大謝名小学校　4年）

小学校　高学年の部　１名



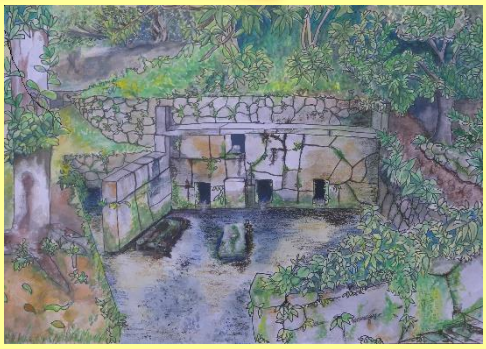
「森の川」
近藤　美月（大山小学校　6年）

金賞作品

各部門２名

鑓溝　瑠里（普天間第二小　3年）「普天満宮」

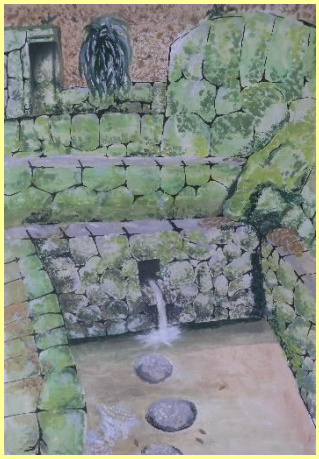
翁長　あいの（長田小　3年）「普天間のししまい」



鑓溝　朱里（普天間第二小　6年）「チュンナーガー」

「普天満宮洞穴」 李　孟書（嘉数中　3年）

「大謝名メーヌカー」 津波古　稀々（沖縄カトリック中　１年）



吉田　琉乃（はごろも小　6年）「みどり豊かな森の川」

銀賞作品

各部門５名

多和田　真丸（宜野湾小3年）

新門　姫粋（はごろも小4年）

具志　心愛（沖縄カトリック小3年）

小橋川　陽花（はごろも小6年）

宮城　拓永（志真志小3年）

豊見山　諒真（普天間第二小3年）

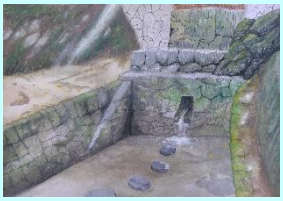
池村　愛奈（大謝名小6年）

島袋　二誓（はごろも小6年）

友利　瑚子（はごろも小6年）

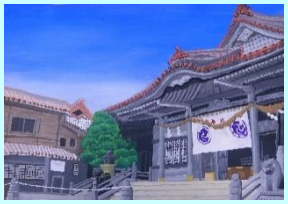
與那覇　玲奈（志真志小5年）

島田　琉平（普天間中１年）



安里　麗史（真志喜中2年）

友利　かづき（嘉数中3年）



長嶺　将和（普天間中1年）

小野　真理子（沖縄カトリック中2年）

これらの受賞作品を含む、全応募作品を展示します。
ご来館いただき、素晴らしい作品の数々をぜひご覧下さい。

第29回ぎのわんの文化財図画作品展

開催期間：12月4日(土)～　26日(日)

※コロナ感染拡大防止のため、当初の開催予定10月2日~17日から変更しました。

博物館学芸員実習を行いました！

小禄墓香炉のレプリカの展示を行いました。

今年度も、8 月 12 日から 23 日までの 11 日間、琉球大学と沖縄国際大学の学生さん 4 人を受け入れて博物館学芸員実習を行いました。

期間中は、資料整理や寄贈資料の登録、常設展示室での展示作業などを行いました。また、常設展示の一部を使用して、各自設定したテーマについての調査研究をもとに展示解説を発表するなど、様々な業務体験を通じて、学芸員の仕事に対する理解が深まったようでした。博物館の実習から得た経験を、ぜひ今後に活かしていただけたらと思います。

■有田　陽音（琉球大学）

コロナ禍の影響で、実習は全て館内で行い、わらば～体験じゅくといった利用者の方と関わる教育普及事業を実行することはできませんでしたが、この 11 日間で学芸員として大切なことを大きく分けて２つ学ぶことができました。

１つ目は、計画を立てて時間を意識しながら、コミュニケーションをとって協力することです。館内チェックなど一日の定期スケジュールの他に、企画展・わらば～体験じゅくの準備などは年間スケジュールに沿って行うものであり、実際にそれらを限られた時間の中で行うのは大変で、他の方々の協力を要するものでした。大量かつ多岐に渡る博物館の仕事では、コミュニケーション能力とスケジュール管理が重要だと感じました。２つ目は、楽しみながら鋭い観点を持つことです。企画展示や展示物の設置などを考える際、情報を伝える相手を楽しませるために、自分が楽しいと思えるような展示の仕方や、面白いと思えることを見つける観点が大切であると学べました。

普段はできない貴重な体験と大切な学びを得ることができました。これから先の人生でこの経験を活かしていきます。

■西江　洸嬉（沖縄国際大学）

今回の実習を通して、人手や時間などの制限がある中でも、目標を達成できるように工夫しなければならないことや、一人一人が様々なことをできないといけないことを学び、学芸員の苦労ややりがいについて少しでも体感できたと思います。

■野中　靖夫（沖縄国際大学）

短い 11 日間の実習でしたが濃い活動が出来ました。今年はコロナの影響で、お客様と接する機会がなく、わらば～体験じゅくの仕事も、準備の一端しか携わることが出来ず残念でした。これから後、博物館に関わる仕事につければ、今回の実習を実務として生かして行きたいです。

■島袋　芽依（沖縄国際大学）

学芸員実習に参加してみて、多くの学びと経験をすることができ、嬉しく思います。博物館の専門職という括りに限らず、非常に多くのスキルが求められること、観覧者の年齢層に合わせた展示解説の仕方などは、学芸員は一人で作業するのではなく、コミュニケーション能力や「社会人としての意識」を持つことが重要視されるのだということを強く感じ取った 11 日間でした。

宜野湾市立博物館

〒901-2224　宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：870-9317　FAX：870-9316

■入 館 料：無料

■開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）

■休 館 日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（文化の日、慰霊の日は開館）